

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部

名 前 佐藤慎一郎

作成日 2026年4月25日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

運動療法学（2年前期）／運動療法学演習（2年後期）／代謝系および癌理学療法（3年前期）／生体計測と運動分析（3年前期）／健康増進と予防理学療法（3年後期）／理学療法特論Ⅰ（3年後期）／理学療法特論Ⅱ（4年後期）／卒業研究Ⅰ（3年後期）／卒業研究Ⅱ（4年後期）／理学療法見学実習（2年後期）／理学療法評価学臨床実習（3年後期）／総合臨床実習Ⅰ（4年前期）／総合臨床実習Ⅱ（4年前期）／地域理学療法学臨床実習（3年後期）／総合理学療法学演習Ⅶ（4年後期）

2. 理念（教育に対する考え方）

理学療法士の役割は、医療・福祉の現場において年々その重要性を増しています。少子高齢化の進展や対象者のニーズが多様化する中、専門的な知識・技術はもちろん、他職種との連携に不可欠なコミュニケーション力、信頼関係を築くための社会的スキル、そして一人の職業人としての責任感がこれまで以上に求められています。

本専攻では、確かな専門性の習得に加え、これらの資質を育むために、学生同士のグループワークや教員との対話、地域との関わり、そして多職種連携を学ぶ機会を積極的に取り入れています。

目的意識を持ち、自らの成長に責任を持って学び続けること。その姿勢こそが将来の医療を支える力となり、理学療法士としての確実な土台となります。皆さんが安心して学び、社会から信頼され、現場で真に必要なとされる専門職へと成長できるよう、私たちは教育環境の充実に全力を尽くしています。

ともに学び、考え、挑戦する4年間が、皆さんにとって大きな飛躍の時間となることを心より願っております。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

「運動療法学」は、理学療法分野における運動を主体とした治療としての学問であるため、原理・原則の説明はもちろんのこと科学的根拠についても紹介することを心がけています。また、「運動療法学演習」においては、各種機能練習や動作練習の具体的な方法と手技を実演する一方で、患者様を想定した注意事項や配慮する点なども説明し、理学療法士としての実践力を養うことを目指しています。これらの科目を修得することによって、理学療法学専攻および大学全体のディプロマポリシーにある「専門的知識や技能の修得」や「他者との共生に必要な社会的責任感や他者への思いやり」が高められると考えております。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

「運動療法学」や「代謝系および癌理学療法」の座学中心の授業では、説明が丁寧でわかりやすかったことや、課題を通じた復習が学習に役立ったことについて、評価をいただいております。また、「運動療法学演習」などの実技中心の授業では、デモンストレーションや動画を交えた実技体験や、わからない点への丁寧な対応が好意的に受け止められております。

引き続き、こうした学びやすい授業づくりに努めてまいります。

一方で、「質問しやすい雰囲気」に関するご意見もありました。授業の情報量を調整し、質疑応答の時間を意識的に確保することで、より話しかけやすい環境づくりを進めていきたいと考えています。

学生の皆さんからの声は、授業改善に向けた大切な手がかりです。今後も率直なご意見をお寄せいただ

ければ幸いです。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

コロナ禍で得た経験を踏まえ、今後は対面授業に加えて、オンデマンド教材の活用や学生の自己学習を推進する教育活動に力を入れていきたいと考えています。

まず短期的な目標として、「学生による自己学習の定着」を掲げます。具体的には、授業外での学習時間の確保と活用を促し、学生が主体的に学習に取り組む習慣の形成を目指します。この自己学習の定着は、半期での達成を見込んでいます。

その後の中期的な目標としては、各学生の進捗状況に応じた個別の学習アドバイスや、協働的な学びを促すグループ学習の導入を進め、より自律的に学習を深める姿勢を育成していきます。こうした取り組みを通して、学び続ける力を備えた学生の育成を目指します。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)

